

平成 29 年度 第 2 回西淀川区教育会議 会議録

1 開催日時：平成 29 年 12 月 19 日（火）午前 10 時 30 分～午前 11 時 30 分

2 開催場所：西淀川区役所 5 階 区長応接室

3 出席者の氏名：

（委員：敬称略、50 音順）

竹本、延原、浜本、森本

（事務局：西淀川区役所）

塩屋区長、山本副区長、高安教育支援担当課長、山城教育支援担当課長代理

小林教育支援担当係長、若松係員

（教育関係者）

三木柏里小学校長（小学校幹事校長）、有田淀中学校長（中学校幹事校長）

4 次第

（1）平成 29 年度の主な取組の中間報告について

（2）平成 30 年度校長経営戦略支援予算（区担当教育次長執行枠）について

（3）その他

- ・民間事業者（リコージャパン株式会社・武藤工業株式会社）について
- ・今後の教育会議のあり方について

5 議事内容

（1）平成 29 年度の主な取組の中間報告について

○区役所からの報告

- ・資料 1 により区役所から説明

○質問など

（委員）

- ・3Dプリンタについて、この取組を通じて活用方法や他国の導入事例などを知ることができ、自分自身は3Dプリンタ等に興味関心を持つようになった。ただ、まだ目的が分かりにくい。区民に浸透させるにはどうすればいいのか。子ども達だけが興味を持ってばよい訳ではなく、大人もしっかりと理解しなければならない。自分自身、3Dプリンタで作成できた物以上に、勉強する過程が大事であると思っている。企業はますます進んでおり、今後様々な業種に広がっていくと感じた。

(委員)

- ・民間事業者を活用した課外学習支援事業について、現在受講している人数が区民ホール 25名、区民会館 28名とのことであるが、多い方なのか。また、満足度はどうなのか。

(区役所)

- ・定員は30名ずつであるため多い方である。事業者は、個別懇談を実施するなど細かい対応をしており、ほとんどの保護者が満足していると聞いている。

(中学校幹事校長)

- ・当校生徒も民間事業者を活用した課外学習支援事業を利用しておりありがたく思っている。ただ、経営として成り立つのか、どのように進むのか心配している。
- ・年限が3年と聞くことがあり、いつまで塾代の助成が続くのかも含め、気になっている。また、現在の事業者が馴染んでいても、毎年事業者が入札で変わる可能性があることなど、積み上げや継続が大切な教育分野であるので、学校としては気になる。

(区役所)

- ・今年度の事業者との協定は3月末までであるが、事業者は来年度も続けたい意向を示している。この事業は家庭学習を補完する事業であり、事業者としても、地域の方々に学習スタッフを担っていただき、将来的には事業者がいなくても地域で実施できるようノウハウを伝えていきたいと考えている。
- ・本市の委託事業などで3年間の契約をしている事業もあり、この事業も同一事業者と複数年の協定締結を検討していく必要があると感じている。有効性や継続性などモニタリングをしながら検討していきたい。
- ・単年度で事業者が変わることについては、区としても不安である。継続性は必要だと感じているので局に提案をしているところである。しかし、行政の取組については単年度が基本であり、例外として、実績や効果があり事業の複数年継続が認められたもの限り複数年契約が可能である。当区においては、平成29年9月から始まったばかりで、効果を実証できるほど実績が積み上がっていないため、委員の皆様からの継続してほしいという意見は非常にありがたく、今後もそういった意見を積み重ねて、事業の継続、事業者の複数年契約ができるよう調整していきたい。

(小学校幹事校長)

- ・この事業により、どれだけ学力が上がったかや学習意欲が高まったか等の効果検証は必要であると思う。
- ・小学校としては、プログラミング教育の推進事業に期待している。

(2)平成 30 年度校長経営戦略支援予算（区担当教育次長執行枠）について

○区役所からの報告

- ・資料 2 により区役所から説明

(3)その他

①民間事業者（リコージャパン株式会社・武藤工業株式会社）との連携について

- ・資料 3 により区役所から説明

②今後の教育会議のあり方について

- ・資料 4 により区役所から説明

(委員)

- ・教育会議の委員として、区の教育に関する議論に参加できてよかった。今後も、西淀川区の子ども達がよりよく学んでいけるよう尽力していきたい。
- ・中学校給食について、中学校分を小学校で作るとことや、次年度 4 月から給食調理員が外部委託になるということを知った。他校分を作るようになることで業務が増えるなか、給食調理員の外部委託を同時に行うことに不安を感じている。
- ・給食のあり方に関する決定は区なのか教育委員会事務局なのか。こういった場で意見しているが、地域の意見がどこまで吸い上げられるのか。

(小学校幹事校長)

- ・給食調理員が外部委託となると栄養教諭が 1 人配置されるため、学校としては助かる面がある。

(中学校幹事校長)

- ・歌島中学校以外の 3 中学校については、平成 30 年 8 月から親子方式の給食が始まる。
- ・校区内にある近隣の小学校でなく、離れた小学校から給食が運ばれる学校では、何かあったときに子ども達の給食に影響が出ないかと心配である。
- ・中学校には栄養教諭が配置されておらず、校内で組織を作って給食の対応をしてほしいと言われている。働き方改革と言われているなか、厳しいと感じる。教育委員会事務局に対して、毎日 1～2 時間給食に関するアルバイト等の人員配置を要望しているが難しそうである。

(区役所)

- ・給食については、教育委員会事務局が担当しているが、区としては改めてそういった意見があるということを伝えていきたい。

(委員)

- ・区の教育に関する議論に参加させていただいてよかった。子ども達が地域の方々に見守られながら学校に通えるというのはとてもありがたい。今後、教育会議が区政会議の一部になったとしても、教育現場や保護者の意見を吸い上げるシステムは継続していただきたい。

(中学校幹事校長)

- ・西淀川区においては、区役所と学校が強いつながりを持っており感謝したい。学校に対して機能的に支援してもらっている。教育委員会事務局の運営方針(素案)に、分権型教育行政についての記載があり、今後も区役所を頼りにしている。学校現場はさまざまな課題を抱えているが、身近な区役所で支援していただけるのはありがたいと感じている。

(小学校幹事校長)

- ・小学校としても区役所と連携することで、非常に助かっている。教育会議が区政会議の一部になったとしても、教育に関する議題については、事前に校長会等で情報をいただき、打合せをしたうえ、現場の意見を持って行ってほしい。小学校校長会としては協力させていただく。

(副議長)

- ・委員としてPTA等とは異なる立場で意見を伝えるというのは、貴重な体験であった。教育会議が区政会議の一部になったとしても、身近な情報を提供しあい、実質的なことなど内容の濃い話ができる場や組織が必要であると思う。

(議長)

- ・2年間議長を務めさせていただき、皆様のご協力のもとスムーズに進行できたことを感謝したい。
- ・教育会議が区政会議の一部になったとしても、小中学校の先生方の意見を十分に吸い上げていただきたい。現場のことを理解せずに議論が進むことがあるが、やはり現場に携わっている方の意見を聞いて判断することが大事だと思う。

(区役所)

- ・これまでの皆様方からのご助言を踏まえながら、さまざまなことを検討していきたい。今後は区政会議で広く意見をいただくことになるが、実質的な意見はこれからもいただければありがたい。校長先生方については、校長会や教育行政連絡会等において、日常のご意見いただきたい。厳しい財政ではあるが、学校への支援や区内の教育環境充実に向けて最大限取り組んでいきたいので、引き続きご理解ご協力を賜りたい。